

# 飛び出そう世界へ!

JICA 海外協力隊からの活動報告

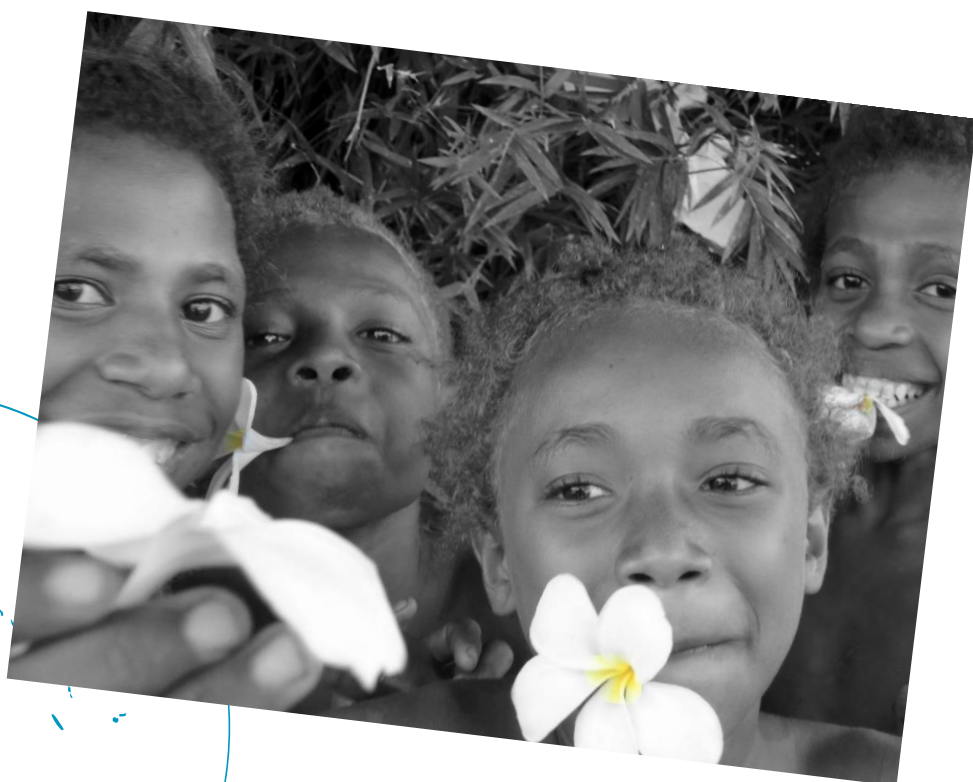


世界には、貧困、医療・保健、教育格差、災害、環境問題など、さまざまな分野において課題が存在しています。このような現状の中で、開発途上国からの要請に基づき「JICA 海外協力隊」が派遣され、開発途上国が抱える課題を克服するため、世界中で活躍しています。

また、JICA 海外協力隊は、派遣国との友好親善や日本とは異なる文化や環境の中において相互理解を深めていくこと、さらに、帰国後は、ボランティア経験を日本社会へと還元していくことが期待されています。

佐賀県にゆかりのある JICA 海外協力隊員も派遣されており、開発途上国が抱える課題を自分の目で見て、自身の技術、知識や経験を生かしつつ、課題の解決に向けて日々活動しています。

「飛び出そう世界へ! ~JICA 海外協力隊からの活動報告~」では、令和5年3月現在で、佐賀県にゆかりのある JICA 海外協力隊からの活動報告をまとめたものです。現地で様々な困難に直面しながらも、自らの工夫やカウンターパート等との協力により、活動に取り組む隊員の活動報告を是非ご一読ください。



# 目次

目次	…1
JICA 海外協力隊活動報告	
原 千津香 隊員(2021 年度 3 次隊/ガーナ共和国/PC インストラクター)	…2
大場 裕太郎 隊員(2021 年度 5 次隊/ベトナム社会主義共和国/野菜栽培)	…5
牧山 祐大 隊員(2022 年度 2 次隊/チュニジア/卓球)	…8
小林 香織 隊員(2022 年度 3 次隊/パラグアイ共和国/家畜飼育)	…12
JICA 海外協力隊の概要	…15





原 千津香 隊員

【隊員区分】2021 年度 3 次隊

【派遣国】ガーナ共和国

【職種名】PC インストラクター

【協力隊に参加したきっかけ】

国際協力に興味を持ち、前職の IT 関連職種の経験を活かし現場で活動してみたいと思ったからです。また、JICA 海外協力隊の制度も様々なサポートがあり安心して参加を決意できました。



### 派遣国の様子

ガーナ共和国は西アフリカにありギニア湾に面する国です。国の周りはトーゴ、ブルキナファソ、コートジボワールに隣接しています。面積は日本の約 3 分の 2 で 23.9 万 km<sup>2</sup>。人口は 3237.3 万人です。熱帯性気候であり年間を通して高温多湿です。乾季と雨季があります。公用語は英語で、地域によって 70 以上の言語が話されています。主要な産業はカカオ豆をはじめとする農業で、鉱物資源も豊富で鉱業も盛んです。

### 料理

ガーナの主食は多様で、キャッサバ、ヤムイモ、プランテン(料理に使う用の甘くないバナナ)、コメ、トウモロコシなどを調理して食べます。調理方法も煮たり、焼いたり、乾燥させたり、発酵させたりと様々です。中でも任地では「フフ」という料理が人気です。フフは家庭によっても違いもあるようですが、キャッサバとプランテンを茹でた後に餅つきのような臼と杵でついて大きい餅状にまとめたものです。フフの味は芋のような甘味が感じられ、食感は粘り気があって噛み応えがあります。フフはパームナッツのスープやピーナッツのスープ等と一緒に食べられます。ガーナ人は右手を鉤のように使ってちぎってそれを丸飲みして食べます。また、ガーナ人は辛い味付けを好み、ほとんどの料理が辛く味付けされています。



「フフ」をつく様子(日本のお餅つきのようです。)



完成したフフとパームナッツスープ(魚や鶏肉も入っていて辛く味付けされています。)

## 任地の様子

私の任地は、ガーナのイースタン州にあり、首都アクラの中心から車で約3時間のところにある田舎町です。小さな町ですが、人口は多く、いたるところであいさつやおしゃべりの声が聞こえてくる活気がある町です。電気と水道はありますが、停電や断水などが頻繁に起こり、インターネットは低速で、つながらないこともあります。任地の人は明るくて懐が深く、困っていると色々と助けてくれます。



任地のマーケット  
(アボカドやオレンジが売られています。)

## 活動紹介

配属先はセントローズ高等学校という公立のカトリック系の女子高等学校です。この学校で ICT の先生として活動しています。主な活動内容は ICT の授業で PC の基本操作や Microsoft Office の操作などの指導、コンピュータ室の維持管理の提案や対応、日本文化や日本語を教えるという活動をしています。生徒数は約 1600 人で、1,2 年生は ICT の授業が必修科目となっています。

ガーナでは毎年首都でガーナよさこい祭りというお祭りが開催されていて、ガーナの高校生を中心によさこいを披露したり、歌や伝統的なガーナのダンス等が披露されたりします。コロナ禍で一旦中止されていたガーナよさこい祭りですが、2022 年の 11 月に再開されました。私も学校の生徒たち約 30 人と一緒に首都の会場に行き、生徒は練習したよさこい踊りとガーナのダンスを披露しました。



生徒の浴衣の着付け体験



配属先の校舎と生徒



校門前の風景  
(ヤギが歩いている)



## 活動・生活で感じたこと

私が住んでいる地域は外国人がほとんど住んでいない地方の田舎町です。断水や停電もあり生活は大変です。しかし、ここに住む人たちにとって断水や停電は当たり前で工夫して何事もないように生活している姿を見るとガーナの人々の力強さと生活の知恵を感じます。私の任地では英語の他にチュイ語という言語が主に話されています。ガーナ人にチュイ語であいさつするとみんなとても驚いて、「外国人がチュイ語を話している!」と言って嬉しそうにチュイ語で話しかけてきます。私は挨拶や毎日使う決まったフレーズを少し覚えてはいますが、それだけでも話せると現地のガーナ人が喜んでくれてとても仲良くなれたような気持ちがします。

配属先の給食室スタッフのマダムたちは英語があまり話せずチュイ語を主に使っている人が多いです。最初は全く何を言っているかわからないことばかりで、今でもあまりわかりませんが、毎日のように給食室に通ってチュイ語であいさつしたり、一緒に座ってのんびりしたりしているうちに言葉はほんの少ししか通じないのに仲良くなれました。先日、給食室のマダムたちが私のためにお葬式出席用の黒いドレスをオーダーメイドで作ってくれました。きっとお金はあまりないのに、みんなで少しずつお金をだして作ってくれたのだと思うととても感動しました。私もこんなに優しくしてくれる給食室のマダムや同僚、かわいい生徒たち、ガーナの人々のためになることをやっていきたいと思いました。



ICTの授業中の風景



日本の学生とのオンライン交流会に参加している生徒

## メッセージ

私の任期は2024年の1月までで、残り一年を切りました。ガーナでは想像を超えたことがよく起こり計画通りにいかないことが多いです。そのたびに目の前に立ち上がった壁を乗り越えたり、道を変えたりして、大きな目標へ近づくように進んでいきます。大変なこともあります。協力隊は様々な職種の人が必要とされていて、自分の経験を途上国で活かせる絶好の機会です。是非、みなさんも挑戦されてください。

## 佐賀を思い出す...

ガーナ人のお葬式に参加したとき、大勢の人が集まってわいわいと外で炊き出しをしたり、料理を運んだりする様子が佐賀の田舎で法事やお祝い事などでよく見た光景だなどと思って懐かしい気持ちになりました。



## 大場 裕太郎 隊員

【派遣区分】青年海外協力隊2021年5次隊

【派遣国】ベトナム社会主義共和国

【職種】野菜栽培

【協力隊に参加したきっかけ】

所属する佐賀大学とベトナムのアンザン大学、アンザン省バイオテクノロジーセンターが協同実施した JICA 草の根「アンザン省における農地の土壌改良と農民の所得向上支援パイロットプロジェクト(2017年5月~2020年3月)」に携わったこと。

「JICA 海外協力隊世界日記」にてブログを執筆中です。

<https://world-diary.jica.go.jp/obayutaro/>



### 派遣国の様子

南北約1650km、東西600kmに伸びるS字型のベトナムは、日本の南西約3800kmにあり、日本から九州を除いた程である約33万㎡の国土を持ちます。南部は有名なメコン河の支流が広がる稲作地帯です。

北部は、日本より気温が高いですが、四季のある亜熱帯モンスーン気候で、中部と南部は、平均気温18℃以上で雨季と乾季のある熱帯サバナまたは熱帯モンスーン気候です。

### 日本とのつながり

2023年は、日越外交関係樹立50周年(1973年9月21日~)となる記念すべき年で、ベトナム各地で記念行事が開催されます。日本国内でも記念イベントが開催されますので、是非、足をお運び下さい。ベトナムでは日本アニメが大変人気であり、日本語を学ぶきっかけにもなっています。そのため、イベントでは日本アニメのコスプレを楽しむ若者が沢山見られます。

日越外交関係樹立50周年記念特設サイト(<https://japanvietnam50.org/>)

4月15、16日開催の福岡ベトナムフェスティバル(<https://fukuoka.vietfes.asia/>)



## みどころ

マンゴー、果物の王様ドリアン、女王様マンゴスチン、バナナにコーヒーやカカオ等、熱帯植物栽培を間近に観察でき、完熟果実を味わえることです。また、インフラの整っていない環境ならではの生活の知恵が垣間見えるのも興味深いです。



メコンデルタ最大の都市カントー市、メコン川と観光客船  
(水草が流れているのがベトナムらしさ)



南部最大の都市ホーチミンの街並み

## 活動紹介

アンザン省バイオテクノロジーセンターは、2012年に設立された公的機関であり、県の農業試験場のような役割を担っています。アンザン省の省都である人口約50万人のロンズエン市から田舎の職場まで、通勤バスで約45分かけて同僚と通っています。活動の主な目的は、塩を吸収する野菜「アイスプラント」を用いた、熱帯の水田転換畑における塩害農地修復技術の確立です。また、日本では佐賀大学発祥の塩味のする野菜「バラフ(農研堂)」としてアイスプラントは販売されていますが、ベトナムでは一部の高級スーパーでしか見かけません。農家の所得向上に繋げるため、ベトナムにおけるアイスプラントの市場展開にも挑戦します。



ロンズエン市のレストランにて、アイスプラントの試食会  
(レストランのオーナーPhúcさんと一緒に)



アンザン大学の温室にて試験栽培中のアイスプラント  
(佐賀大学と共同プロジェクトを行っている Xuân 先生、Loan 先生、  
大学生の Quíさんと一緒に)



## メッセージ

JICA 海外協力隊の魅力は、発展途上国の実生活を体験できることです。長期間の滞在でしか見えてこない文化、制度、感覚や考え方の違いを理解するにつれ、任国および日本の長所や短所が明確になってきます。国際感覚を養う上では、貴重な経験を積める場になります。また、海外で働きたい方のキャリア形成の第一歩にお勧めです。任期中の現地語学習サポートや修士号の取得補助制度があるため、大学在学中に休学して協力隊に参加するのも、卒業後の進路としても良いと思います。また、帰国後に大学院へ進学する方向の奨学金制度もあります。



同僚同士の結婚式  
(同僚やその家族と一緒に)



同期隊員(左から北岡さん、福崎さん、赤司さん)

## 佐賀産品の PR に対する反応

さが県産品流通デザイン公社のサポートを受けて、(株)石橋果樹園[石橋健一さん、有美さん方]が佐賀県から初めてベトナムに輸出した温州みかんの販売促進会(2023年1月15日、ホーチミン高島屋)に参加しました。佐賀県大和町で栽培された温州みかんを「甘くて美味しい」と喜んで召し上がるベトナム人や駐在中の日本人のお客さんが多く見られ、一週間程で完売しました。



販売促進会の様子



## 牧山 祐大 隊員

【隊員区分】2022 年度 1 次隊

【派遣国】チュニジア

【協力隊に参加したきっかけ】

大学生の頃の協力隊のことを知り、目指していた教員の道に進む前に海外協力の経験を経ることで、将来子どもたちにとっていい刺激を与えられる教師になれると思い、大学を卒業後協力隊に参加しました。



### 派遣国の様子

チュニジア共和国は北アフリカに位置し、西にアルジェリア、南東にリビアと国境を接し、北と東は地中海に面しています。南北に 850km と細長い国土をしており、北部は地中海性気候で基本的に温暖で晴れの日が多く、乾燥した気候です。そして南部には砂漠が広がっています。またチュニジアはイスラム教の国で、国民の多くがイスラム教徒です。公用語はアラビア語ですが、小学校からフランス語教育されているのでフランス語もほぼ通じます。

### 料理

下の写真は、チュニジアの伝統的な料理のクスクスというものです。多くのチュニジア料理にはハリッサと呼ばれる唐辛子をベースとした調味料が使われています。

しかしチュニジアでは、ヨーロッパの影響を強く受けており、主食としてフランスパンが食べられており、パスタやピザもよく食べられています。だいたいフランスパン1本が日本円で25円程度です。



クスクス



パン屋さん



## みどころ

チュニジアにはたくさんの観光地があり、素敵なビーチも多くあります。その中でも私のおすすめの場所はシディブサイドという場所です。青と白に統一された非常に美しい街並みです。この写真が、シディブサイドです。



## 任地の様子

私の任地は北海岸に位置するラフラフという町で、人口は約1万人です。ビーチのとてもきれいな町で夏場は多くの観光客が集まります。こちらが任地のビーチです。



左下の写真は火曜日と水曜日に開かれるスークと呼ばれるもので、野菜や果物、服や雑貨など様々なものが売られています。

右下の写真は、自宅のベランダから外の景色を撮ったものです。奥の方に見える塔のようなものは、イスラム教のお祈りを行う場所であるモスクというものです。





## 活動紹介

配属先は、全国に12ある強化クラブチームの1つに指定されている卓球クラブで、週6日で活動しています。対象年齢は5~19歳の子どもが主で社会人も数名所属しています。人数は、小学生が15人、中高生が15人程度います。活動は小学生と中高生のグループに別れて行っています。コーチは私の他に2名おり1人のコーチが小学生を担当しており、もう1人のコーチが中高生を担当しています。

## 同僚紹介

小学生グループを担当しているアナス。彼は30歳で、元チュニジアの代表選手をしており、日本の水谷準選手などとも試合経験があります。コーチの他にジムトレーナーの仕事をしています。



中高生グループを担当しているハムディ。彼は、卓球だけではなくサッカー選手としても活動しています。また彼は卓球コーチ以外に学校で体育の先生をしています。

私はこの同僚の2人のコーチと一緒に子供たちに卓球を教えています。活動は基本学校の終わった夕方からです。午前中も学校の授業がない子どもの練習を行っています。午前中の練習は私1人で行い、夕方の練習は同僚のコーチと2人体制で行っています。

これが活動の様子です。



### 苦労したこと・学んだこと

卓球を教える中で一番苦労したことは、叱るということです。私は、もともと怒ることが得意ではなかったのに加え言語が通じない子どもに対して叱って伝えるというのは苦労しました。他のコーチが居なく私一人のときの練習は子どもたちの態度は明らかに違い、卓球台の上を走ったり、自転車で卓球場に入ったりと大変でした。練習でも指示した練習ではなく自由に遊びだすことがよくあります。私が軽く注意するくらいでは全く聞かないので、怒鳴り続けるのではなく1度練習から離れさせ椅子に座らせ反省させるようにしました。そうすることで怒鳴って言い聞かせるよりも、自分が何で怒られたのか考える時間ができたと思います。それを繰り返し子どもたちに自分なりに思いを伝えていくことで、だんだんと言うことを聞いてくれるようになりました。



### 残りの任期での目標



残りの任期は1年5か月とまだまだあるので、子どもたちをさらに成長させ、チュニジアの国内トップクラスの選手を輩出させたいです。また、卓球の面白さをもっと伝えることで将来継続的に卓球を楽しめるような子どもが増えてほしいと思います。



## 小林 香織 隊員

【隊員区分】2022 年度 3 次隊

【派遣国】パラグアイ共和国

【職種】家畜飼育

【協力隊に参加したきっかけ】

大学生の時に、パラグアイで短期ボランティアとして1か月参加したことがきっかけで青年海外協力隊としてもう一度活動したいと思い、応募しました。



小林隊員は、パラグアイ共和国到着直後に、この原稿を執筆いただきました。そのため、任地に着任する前の報告となっています。

(JICA 海外協力隊は、派遣国に到着直後は、手続き、オリエンテーションや現地での語学研修等を行います。)

## 派遣国の様子

パラグアイ共和国は南アメリカ大陸の中央に位置し、約 41 万 km<sup>2</sup> (日本の約 1.1 倍) の面積に約 745 万人の人々が暮らしています。言語はスペイン語と先住民のグアラニー族の言語が話されていて、パラグアイの多くの方が両方の言語を理解します。歴史的にも、個々の背景にもグアラニー族の存在が大きいことが表れています。日本からの距離はおよそ 1 万 8 千 km で、首都アスンシオンまで 30 時間以上要します。



## 日本とのつながり

現在約 7000 人の日系人がパラグアイに在住しています。1936 年にラ・コルメナ移住地で入植が始まり、チャベス移住地、ラ・パス移住地、ピラポ移住地、イグアス移住地が建設され、今も多くは移住地で農業を営んでいるそうです。80 年以上前に、日本からパラグアイに来るという決心と、パラグアイで農業を始めることは想像を超えるものだっただろうと思います。街中で「ありがとう」と声をかけられたこともあり、日本が受け入れられていることを肌で感じました。



## 料理

パラグアイの食事は肉料理が多いです。ミラネサと呼ばれる牛カツや、大きな揚げ餃子のようなエンパナーダという、塩などで味付けされた具材を生地で包んで揚げた料理は、スーパーや売店でよく見かけます。どれも量が多く、胃袋の大きさの違いを感じています。また、チパというパンもよく食べられています。野菜や果物は生のものが購入できますが、キノコ類、魚介類はその多くが缶詰や冷凍で輸入されていて、値段も高いです。また、週末はアサードという焼肉をする文化があります。

2月のパラグアイは夏です。日中は35度を超える日々が続き、湿度は低いですが日差しはとても暑いです。パラグアイではマテ茶を飲む文化があり、冷たいマテ茶のことをテレレと呼びます。街では片手に1Lポットを持って、テレレを飲んでいる人を見かけます。スーパーマーケットでも様々な種類のマテ茶が並んでいます。味の好みだけでなく、体調に合わせて薬草を加え、薬のようにマテ茶を飲むそうです。



滞在したホテルには「ラパチョ」という木が描かれた絵が飾られていました。前回来た9月は、ラパチョの花が見頃でとても綺麗でした。ピンクや黄色の花で、遠くから見ると桜のようです。語学の先生が、ラパチョの開花は作物の種まきを始められる合図だと教えてくれました。

## 活動の抱負

語学授業がない時間には散歩をしています。目に入る標識や、商品のスペイン語が読めると嬉しいです。2月現在は新型コロナウイルス感染症の患者数が減り、ショッピングモールでイベントが開催されるなど、規制が緩和されています。スペイン語を耳にする機会を増やし、早く会話を聞き取れるようになりたいです。

先日、配属先になる農協の牛乳を見つけたので飲んでみました。日本とは全く違う味で驚きました。赴任後の活動への不安もありますが、牛乳の味の違いやどんな環境で生産されているのかもっと知りたいと思いました。配属までは、日常生活を送る力を身につけ、任地で多くのことを吸収して活動できるように頑張ります。



# JICA 海外協力隊の概要

※JICAHP をもとに県国際課がまとめたものです。

## JICA 海外協力隊の目的

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき、青年海外協力隊等として派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としています。任期は原則 2 年間で、これまで世界 98カ国に5万人以上の隊員を幅広い分野に派遣してきました。帰国後は、日本や世界で協力隊経験を生かした活躍が期待されています。

佐賀県からは、これまで 70 の国・地域に 392名※の隊員が派遣されました。  
(令和 2 年には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全隊員が日本に一時帰国しました。しかし、同年 11 月に、安全と健康に留意しつつ、派遣を再開しています。)

※青年海外協力隊・海外協力隊、日系社会青年海外協力隊・日系社会協力隊、シニア海外協力隊・日系社会シニア海外協力隊、各短期派遣を含みます。

### 3つの主な目的

開発途上国の  
経済・社会の発展、  
復興への寄与

異文化社会に  
おける相互理解  
の深化と共生

ボランティア  
経験の社会還元



# 活動分野と職種

JICA 海外協力隊には、9つの分野、190以上の職種があります。

## 計画・行政

### 国・地域づくりに関わるシゴト

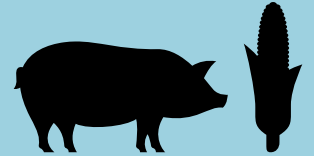
- コミュニティ開発
- コンピュータ技術
- 行政サービス
- 防災・災害対策 など



## 農林水産

### 食べ物や自然に関わるシゴト

- 野菜栽培
- 家畜飼育
- 食用作物・稲作栽培
- 土壌肥料 など



## 鉱工業

### ものづくりに関わるシゴト

- 自動車整備
- 建設機械
- 食品加工
- 金属加工 など



## 人的資源

### 教育やスポーツなど人を育てるシゴト

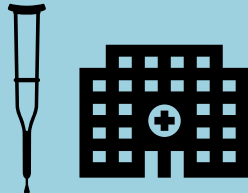
- 小学校教育
- 各種スポーツ職種
- 青少年活動
- 環境教育 など



## 保健・医療

### いのちに寄り添うシゴト

- 看護師
- 感染症・エイズ対策
- 理学療法士 など



## 社会福祉

### 福祉に関わるシゴト

- ソーシャルワーカー
- 障害児・者支援
- 高齢者介護 など



## 商業・観光

### マーケティングや観光に関わるシゴト

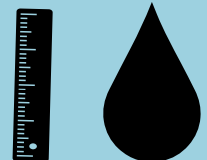
- マーケティング
- 経営管理
- 観光 など



## 公共・公益事業

### 生活サービスに関わるシゴト

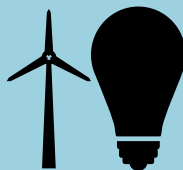
- 土木
- 建築
- 上/下水道
- 廃棄物処理 など



## エネルギー

### エネルギーに関わるシゴト

- 電力
- 再生可能・省エネルギー など



さらに詳しくは JICA 海外協力隊 HP へ!

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>